

1: 出席者

加藤<sup>a</sup>・大西<sup>b</sup>・千葉・片山・岡部・平林・大塚<sup>c</sup>・内藤<sup>c</sup>・合川<sup>cd</sup>・吉田<sup>c</sup>  
(<sup>a</sup>:委員長, <sup>b</sup>:議長, <sup>c</sup>:オブザーバー, <sup>d</sup>:書記)

2: 報告

- IAEA での核反応データセンター会議(6/17-19)に加藤、大塚が参加予定である。(加藤)
- IAEA に出張し、E022 を完成させた。(大塚)
- 年次報告書が完成した。(吉田)
- 今年度のコーディング作業計画を作成した。(吉田)
- IAEA が作成した EXFOR 検索システムを紹介する。(合川)

3: 議論

- 今年度コーディング作業計画について  
今年度は 12 月までに 30 編のコーディングを行う。  
新たな作業方法(レフェリーとチェック者とコーディング者による採録データの事前決定)を試験的に導入する。
- 論文の採録状況について  
論文の採録状況(採録対象雑誌名、実験論文数、採録対象論文数等)に関する情報を収集する。
- CINDA に登録する論文について  
日本国内で発行された雑誌またはプロシーディングから採録することとし、具体的な雑誌等については引き続き検討する。
- 医療データに関して  
2 年前まで国内の医療データを収集していた天道氏(未来科学技術情報館)の意見を伺うこととする。
- 新規コードについて  
提案：TRNSF-MOM(V-TYPE への登録)、KYY(Kyy component of polarization transfer)  
承認：TRNSF-MOM、KYY

4: 次回

2003 年 5 月 19 日 18:30~

1: 出席者

加藤<sup>a</sup>・大西<sup>b</sup>・千葉・能登・岡部・平林・須田<sup>c</sup>・吉尾<sup>c</sup>・合川<sup>cd</sup>

(<sup>a</sup>:委員長, <sup>b</sup>:議長, <sup>c</sup>:オブザーバー, <sup>d</sup>:書記)

2: 報告

- 今年度 VBL の COE 研究者として、内藤、合川に加え、須田、吉尾両氏が新たに採用された。(加藤)
- 今年度の核データの科研費は不採択となった。(加藤)
- 核反応データセンター会議(6/17-19)での報告書を昨年の形式に沿って作成する予定である。(加藤)
- 印刷・製本された 2002 年度年次報告書に大きな印刷ミスが見つかり、再印刷することとなった。  
(能登)

3: 議論

- 再印刷する年次報告書について

以下の項目を追加することとした。

EXFOR のコーディング数

EXFOR のコーディングデータ数

コーディングデータの内、著者から提供を受けたデータ数

IAEA に報告した内容の英語版

- 新規コードについて

以下のコードが新規に提案され、承認された。

TRNSN-PRBTY (Transition probability), DELTA-MAG-MMT (Error in Magnetic moment),

PLST-SCT (correction of expansion), DELTA-RESN-STRGTH (Error in Resonance strength),

RESN-STRGTH (Resonance strength), RESNS-STRGTH (Obs. Use RESN-STRGTH),

2JPNSUT (correction of expansion), INCASC-MODEL (Intranuclear cascade model)

以下のコードについても提案されたが、再検討することとなった。

DELTA-SIGMA (Obs. Use DELTA-TOT-XSECTN), SIGMA (Obs. Use TOT-XSECTN),

DELTA-TOT-XSECTN (Error in total cross section),

KXX / KZX / KXZ / KZZ (Kxx / zx / xz / zz component of polarization transfer),

DELTA-KXX / -KZX / -KXZ / -KZZ (Error in Kxx / zx / xz / zz component of polarization transfer)

- 著者の所属機関の追加情報について

従来を表記法(加速器の有無による分類)を踏襲する。

学部等の情報はコメントに書く。

(例) 2JPNKTO'I' /\* 'I' DEPARTMENT OF PHYSICS \*/

4: 次回

2003 年 6 月 30 日 18:30~

1: 出席者

加藤<sup>a</sup>・大西<sup>b</sup>・能登・岡部・平林・大塚<sup>c</sup>・内藤<sup>c</sup>・須田<sup>c</sup>・吉尾<sup>c</sup>・合川<sup>c,d</sup>  
(<sup>a</sup>:委員長, <sup>b</sup>:議長, <sup>c</sup>:オブザーバー, <sup>d</sup>:書記)

2: 報告

- IAEA Center Meeting に出席した。(加藤)
- Polarization の定義についての原案を作成した。(能登、大塚)
- 2002 年度年次報告書が完成した。(能登、平林)

3: 議論

- IAEA Center Meeting での議論について  
論文のデータ収録状況調査を行うこととなった。JCPRG の担当は、98 年の PRL と PLB である。  
2004 年国内発行の雑誌から CINDA 用のデータを作成し、NEA に送信する。  
HENDEL を早急に公開する。  
医療用のデータについては雑誌リストが作成された後採取を開始する。  
2004 年の核データ国際会議が秋にサンタフェで行われ、その後 BNL において Center Head Meeting が開催される。  
12 月に EXFOR のコーディングワークショップが IAEA にて開催される。参加希望申請を IAEA に送信する。  
これまでに行われた  $^{16}\text{O}\sim^{44}\text{Ti}$  の  $\alpha$  粒子散乱データリストを至急作成する。
- コードについて  
以下のコードを登録、修正する。  
H-TYPE : SIGMA, DELTA-SIGMA (Obs. TOT-XSECTN)  
V-TYPE : TOT-XSECTN (Obs. SIGMA, DELTA-SIGMA)  
以下のコードを廃止する。  
COMP-NUCL-PROC, CMPD-PROC  
Polarization に関連した物理量の定義を作成する。  
(例) KYY (Kyy component of polarization transfer),  
今後はキーワードの定義をレキシコンに明示していくこととする。  
キーワードに対しての定義がレキシコンに明示されている場合、辞書にフラグをつける。
- DARPE (DAta Retrieving and Plotting Engine) の公開について  
7 月中に公開することとする。
- 採録対象雑誌について  
Nuclear Instruments and Methods in Physics Research Section B にて 3 編の対象論文が見つかった。
- 特別会計「高度放射線測定技術による革新炉用原子核データに関する研究開発」の会議について  
8 月に北海道で開催する予定である。

4: 次回

2003 年 7 月 28 日 18:30~

1: 出席者

加藤<sup>a</sup>・大西<sup>b</sup>・能登・岡部・平林・大塚<sup>c</sup>・須田<sup>c</sup>・合川<sup>c,d</sup>・吉田<sup>c</sup>  
(<sup>a</sup>:委員長, <sup>b</sup>:議長, <sup>c</sup>:オブザーバー, <sup>d</sup>:書記)

2: 報告

- シグマ委員会に出席し、JCPRG の活動報告を行った。(加藤)
- NRDF 検索・作図システム“DARPE”を公開した。(大塚)
- Prelim.E023 (新規 4 編、更新 8 編) を 7 月 3 日に IAEA に送付した。(大塚)
- コーディングの作業計画を作成した。(吉田)
- グラフ数値化システムを作成した。(合川)

3: 議論

- コーディング時における標的の質量数の表記について  
自然同位体比が 100% の場合で論文中に濃縮率・質量数が明記されていない場合

(例) Be target = Natural Be = <sup>9</sup>Be ?

著者に問い合わせることとする。

- 採録雑誌について  
ATOMKI の Takacs 氏から医療用データの掲載雑誌リストを頂いた。  
これをうけて ARI, RCA, JRN の 3 誌を今後採録対象雑誌に加える。

ARI : Applied Radiation and Isotopes

RCA : Radiochemica Acta

JRN : Journal of Radioanalytical and Nuclear Chemistry

- コードについて

以下のコードが新規に提案され、承認された。

ENGY-EMT-CM-MAX	(H)	(Energy of emitted particle in c.m. system (upper limit))
ENGY-EMT-CM-MIN	(H)	(Energy of emitted particle in c.m. system (lower limit))
MAG+SBD	(V)	(Magnet+Surface barrier detector)
DELTA-BE-L	(H)	(Error in B(E lambda))
DELTA-BM-L	(H)	(Error in B(M lambda))
EXC-ENGY-MIN	(H)	(Excitation energy (lower limit))
EXC-ENGY-MAX	(H)	(Excitation energy (upper limit))
DELTA-TOT-SIGMA	(H)	(Error in total cross section)

次のコードの修正が提案され、承認された。

EMT-ENGY            Obsolete (use ENGY-EMT)

4: 次回

2003 年 9 月 29 日 18:30~

1: 出席者

加藤<sup>a</sup>・大西<sup>b</sup>・千葉・平林・能登・大塚<sup>c</sup>・内藤<sup>c</sup>・勝間<sup>c</sup>・吉尾<sup>c</sup>・須田<sup>c</sup>・合川<sup>c,d</sup>  
 (:<sup>a</sup>:委員長, <sup>b</sup>:議長, <sup>c</sup>:オブザーバー, <sup>d</sup>:書記)

2: 報告

- データベース科研費の申請を行う予定である。(加藤)
- IAEA でのコーディング講習会に大塚・合川が参加申請をした。(加藤)
- 勝間氏が VBL の COE として新規採用された。(加藤)
- NRDF マニュアル検索システムを作成した。(吉尾)
- 原子力学会でデータ動向調査についての報告を行った。(内藤)
- 天文台での研究会、VBL 懇談会で発表を行った。(須田)
- E023 最終版を IAEA に送付した。(大塚)
- コーディング作業の進行状況を確認した。(大塚)
- コーディング作業時におけるコーディング者間の意見交換に関するメールの保存・参照システムを作成した。(合川)

3: 議論

- 採録時の反応の表記法について  
 (D1797) 反応式としては実験を忠実に再現する  $p(14\text{Be},14\text{B})n$  とする。  
 Deuteron 標的の場合は  $d(14\text{Be},14\text{B})X$  とする。

- NRDF から EXFOR への未変換データの変換作業について  
 新規論文(2003 年発行)を優先的に採録をする。

- コードについて

以下のコードが新規に提案され、承認された。

UB/SR**2/MEV	(V)	ub/sr**2/MeV
UB/SR**2/MEV**2	(V)	ub/sr**2/MeV**2
MAG+CRNKOV+TOF	(V)	Magnet+Cerenkov counter+ToF
COS-LAB-MAX	(H)	Cosine in lab. system (upper limit)
COS-LAB-MIN	(H)	Cosine in lab. system (lower limit)
ENGY-EMT-LAB-MIN	(H)	Energy of emitted particle in lab. system (lower limit)
ENGY-EMT-LAB-MAX	(H)	Energy of emitted particle in lab. system (upper limit)
DELTA-MOTT-RATIO	(H)	Error in Cross section ratio to Mott Cross Section
SWPC	(W)	SWPC: Single-wire proportional counter
Z	(H)	Atomic number
DELTA-AVER-KIN-ENGY	(H)	Error in Average kinetic energy
MCPLT	(V)	Microchannel plate

A-MAX	(H)	Mass number (upper limit)
A-MIN	(H)	Mass number (lower limit)
ANTIN	(V)	Anti-neutron
PPAC	(V)	PPAC: Parallel plate avalanche counter
PARTCL-NA	(V)	pnA (particle nA)
EXC-ENGY-INTRM-MAX	(H)	Excitation energy of intermediate nucleus (upper limit)
EXC-ENGY-INTRM-MIN	(H)	Excitation energy of intermediate nucleus (lower limit)
DSIGMA/DPL	(H)	dsigma/dp(longitudinal)
DELTA-DSIGMA/DPL	(H)	Error in dsigma/dp(longitudinal)

以下のコードの修正が提案され、承認された。

DWIA	(V)	DWIA : Distorted wave impulse approximation
DWBA	(V)	DWBA : Distorted wave Born approximation
BUBBLEC	(V)	Obsolete (Use BUBLLC)

#### 4: 次回

2003年10月27日 18:30~

1: 出席者

加藤<sup>a</sup>・千葉・平林<sup>b</sup>・能登・内藤<sup>c</sup>・勝間<sup>c</sup>・吉尾<sup>c</sup>・須田<sup>c</sup>・合川<sup>c,d</sup>・吉田<sup>c</sup>

(<sup>a</sup>:委員長, <sup>b</sup>:議長, <sup>c</sup>:オブザーバー, <sup>d</sup>:書記)

2: 報告

- VBL 懇談会で報告を行う予定である。(内藤、合川)
- Brink 氏が来日し、セミナーが行われた。(加藤)
- コーディング作業が進展したので、レフェリーの依頼をする予定である。(吉田)
- JENDL 検索・表示システムを角度分布についても作成した。(内藤)
- EXFOR 検索・表示システムの改良を行った。(須田、吉尾、勝間)
- 光学模型を用いた理論計算・表示システムを作成した。(勝間)

3: 議論

- コーディング者とレフェリーとの議論について  
基本的にはこれまで通りメールにて行うが、状況を見て運営委員会の前に議論することを依頼する。

4: 次回

2003 年 12 月 15 日 18:30~

## 1: 出席者

加藤<sup>a</sup>・大西<sup>b</sup>・片山・能登・平林・内藤<sup>c</sup>・勝間<sup>c</sup>・吉尾<sup>c</sup>・須田<sup>c</sup>・合川<sup>c,d</sup>・吉田<sup>c</sup>

(<sup>a</sup>:委員長, <sup>b</sup>:議長, <sup>c</sup>:オブザーバー, <sup>d</sup>:書記)

## 2: 報告

- 甲南 - ブリュッセル自由大学共同プロジェクトへ参加予定であり、年明けに協力内容について議論をする予定である。(加藤)
- 理化学研究所の小濱氏から NRDF についての解説依頼があり、1 月に大塚氏が講習会を行う予定である。(加藤)
- EXFOR Basic Manual の日本語版を Web 上に掲載する。(片山、大塚)
- D1600 番台が主体の Prelim.E024~E026 を IAEA に送付した。今後 D1500 番台のコーディング作業に入る予定である。(吉田、大塚)
- IAEA で 12 月 1~5 日に行われた EXFOR コーディングに関するワークショップに参加した。(合川、大塚)
- VBL 懇談会で検索・表示システムのデモンストレーションを行った。(内藤、合川)

## 3: 議論

- コードについて

以下のコードが新規に提案され、承認された。

MAG+SCT+TOF+MWPC	(H)	Magnet+Scintillator+ToF+MWPC
DELTA-TOT-KIN-ENGY	(H)	Error in Total kinetic energy
THK-TGT	(H)	Thickness of target
FISSN-YLD	(V)	Fission yield
PRBLE	(W)	Probable
MOST	(W)	Most
MOST-PRBLE-CHRG	(V)	Most probable charge
MOST-PRBLE-CHRG	(H)	Most probable charge
DELTA-MOST-PRBLE-CHRG	(H)	Error in Most probable charge
DELTA-LEG	(H)	Error in Legendre coefficient
INC-MOM-LAB	(H)	Incident momentum in lab. system
SI.O2	(V)	SiO2

- NRDF の使用文字について

フリーテキストの部分(注釈、タイトル)については小文字の使用を認める。

著者についてはさらに検討する。

- 入射エネルギーの表記について

論文に記載されている情報と著者提供の情報が異なる場合には、著者提供の正確なものを採用し、コ

メントを追加する。

- 重心系での反応式の記載方法について

JCPRG としては標的核と入射核を厳密に区別する方式を支持する。

#### 4: 次回

2004 年 1 月 26 日 18:00~

1: 出席者

加藤<sup>a</sup>・大西<sup>b</sup>・片山・岡部・平林・大塚<sup>c</sup>・内藤<sup>c</sup>・勝間<sup>c</sup>・吉尾<sup>c</sup>・須田<sup>c</sup>・合川<sup>c,d</sup>・吉田<sup>c</sup>  
(<sup>a</sup>:委員長, <sup>b</sup>:議長, <sup>c</sup>:オブザーバー, <sup>d</sup>:書記)

2: 報告

- 1/7 に東京(東工大)で行われた特別会計の会議において、検索・作図システムの進行状況について報告した。また、2/16 に北大で総合核データ利用システムの打ち合わせ、2/19 に東京で特別会計全体会議が行われる予定である。(加藤)
- VBL での海外派遣、研究員招聘、COE 研究員の申請についてそれぞれ検討を行う予定である。(加藤)
- 小濱氏からの依頼により、理化学研究所において NRDF についての講習会を行った。(大塚)
- 採録エディタ HENDEL 上で EXFOR の文法チェックプログラム CHEX が稼動するように改良した。(大塚)
- 早急に採録エディタ HENDEL を公開する予定である。(大塚)
- 検索・作図システムの改良を行った。(須田)
- 新規サーバ用のコンピュータを 2 台購入し、それぞれ公開用とテスト開発用とする。現在設定を行っている。(勝間、須田)
- 1/19 の VBL 懇談会で発表を行った。(吉尾)

3: 議論

- JCPRG の活動報告について  
核談通信と ntj-1 で JCPRG の活動報告を行うこととなった。
- データの採録基準について (D1810)  
積分された物理量が折れ線グラフで図示されている場合、著者からデータ提供がされた場合は採録するが、提供されない場合については採録者等の判断による。
- EXFOR で未採録の医療用データについて  
日本で行われた実験 (8 件) に関しては JCPRG で採録する。
- EXFOR での数値データ採録方法について  
複数の独立変数を用いて複数の数値テーブルを結合することが可能であるが、JCPRG としては正規化された複数のテーブルとして採録することとする。
- 2003 年度報告書 (案) について  
以下のような案が議論され、今後依頼を行うこととする。

巻頭言

医療用核データについて (大塚 (、天道))

光学模型による弾性散乱の理論計算・作図システムについて (勝間)

天文データベース作成について (須田)

Web 上での数値読み取りシステムについて (合川)

NRDF から EXFOR への変換状況について (大塚、吉田)

NTX ワーキンググループ報告書 (能登)

IAEA annual meeting 報告 (加藤、大塚)

IAEA ワークショップ報告 (大塚、合川)

#### 4: 次回

2004年3月1日 18:00~

1: 出席者

加藤<sup>a</sup>・大西<sup>b</sup>・岡部・千葉・能登・内藤<sup>c</sup>・勝間<sup>c</sup>・吉尾<sup>c</sup>・須田<sup>c</sup>・合川<sup>c,d</sup>・吉田<sup>c</sup>  
(<sup>a</sup>:委員長, <sup>b</sup>:議長, <sup>c</sup>:オブザーバー, <sup>d</sup>:書記)

2: 報告

- 2/16 に北大で総合核データ利用システムの打ち合わせ、2/19 に東京で特別会計全体会議が行われた。  
(加藤、内藤、須田、勝間)
- 検索・表示システムの試用版を原子力研究所のサーバに移植する。(加藤)
- B. Giraud 氏が来札され、およそ 1 ヶ月間滞在される予定である。(加藤)
- IAEA から依頼があった 17 編の論文の採録作業を行う。(吉田)
- 国産同位体生成についての調査を行い、12 編の採録対象論文が見つかった。(大塚、吉田)
- 2/16 の VBL 懇談会で発表を行った。(勝間)

3: 議論

- D1594 でのデータ採録方法について  
論文中では Rutherford Ratio、著者提供のデータでは微分断面積だった場合に、両者を別々のデータとして採録する。
- 読み取り可能なデータがない論文について  
今回 IAEA から依頼があった論文に関しては特別に採録を行い、NRDF にも変換する。
- 年次報告の取り扱いについて  
IAEA から依頼があった論文に関しては特別に採録を行う。
- レフェリーの分担について  
およそ 60 編を 10 月の IAEA Center Meeting までに EXFOR に登録するため、問題がないと思われるデータとそれ以外について異なる対処を行う。
- 新規雑誌コードについて  
以下のコードが新規に提案され、NRDF 用コードについて承認された。EXFOR 用コードは IAEA に提案する。

(NRDF)	(EXFOR)	
RI	RI	“Radioisotopes”
A-INS	A-INS-	“Univ. of Tokyo, Inst. for Nucl. Study, Annual Report”

- コードについて

以下のコードが新規に提案され、承認された。

ISOMER	(H)	Isomer
ISOMER	(W)	Isomer
ISOMR	(W)	(obsolete : use ISOMER)
UCI	(W)	Micro-Curie

UCI/UA/HOUR	(H)	u-Curie/uA/hour
TTY	(V.7)	Thick Target Yield
TTY	(H)	Thick Target Yield
DELTA-TTY	(H)	Error in Thick target yield
MULTPOL	(H)	Multipole
MB/SR/SR/MEV	(V.14)	(obsolete : use MB/SR**2/MEV)
MB/SR/SR	(V.14)	(obsolete : use MB/SR**2)
DELTA-DSIGMA	(H)	(obsolete : use DELTA-DSIGMA/DOMEGA/DOMEGA)
DSIGMA	(H)	(obsolete : use DSIGAM/DOMEGA/DOMEGA)

- 年次報告について

4/19 を締め切りとする。

#### 4: 次回

2004年4月19日 18:30~